Macleay, Kenneth

Highlanders of Scotland; portraits illustrative of the principal clans and followings and the retainers of the royal household at Balmoral, in the reign of Her Majesty Queen Victoria. 2 v.

London, Mr. Mitchell, 1870.（文献番号7-12）

Hiler p.559

マックレイ著

スコットランドの高地人；ヴィクトリア女王の治世における主要な氏族と従者およびバルモラル城の王室家臣の肖像画集　全2巻

ハイランドはスコットランドの高地地方で、グレートブリテン島の北部山岳地帯をさす。この地方は、平野と丘陵に囲まれた穏やかな南部イングランドとは趣きを異にし、地形は起伏に富み、岩石や山が多い一方，渓流や湖水、フィヨルド等が見られる。気候も霧や雨が多く、東部地帯は激しい北西風が吹き、あらしの日が多い。このようなきびしい自然の中でハイランドは独自の文化を育んだ。

スコットランドは11世紀頃、王国に統一されるが、そこに至るまでにはケルト人、スコット人、アルグル人等幾種もの民族が征服を繰り返した。そしてその後もイングランドとの間に王位継承をめぐる紛争が続いたが、1707年に両者は合同してグレートブリテンの一部となった。今日、スコットランドの住民の気質や政治行政の機構がイングランドと異なっているのは、こうした風土や歴史の違い、大陸からの民族の流入や文化の受容に差があったことなどがあげられる。長い間の南北の対立期にスコットランド人は堅く団結して、自らの民族性に高い誇りをもっていた。

本書はこうした背景をうけて、グランピア州にある英王室の御用邸バルモラル城で仕える王室の家臣や主要な氏族（clan）の人々などハイランドの勇士たちを記録に残し、後世に伝える意図でつくられている。

57×35cmの大型判で、紙面いっぱいに着色石版画の全身像の人物画が描かれている。前頁にはその人物の出生、経歴、家柄の故事来歴などが史実にもとづいて解説してある。2分冊から成り、第1分冊は、「王室の家臣」という見出しで、①バルモラル城の女王陛下の守衛長　②女王陛下の個人的な召使い　③女王陛下のバグパイパー

④皇太子レオポルド殿下の召使い　⑤バルモラル城の女王陛下の二人の守衛兵　⑥ウェールズ皇太子のバクパイパー　⑧シュレスヴィッヒホルシュタインの召使い、の８枚と「氏族とその人々」の見出しのもとに７枚、計15枚の図版がある。２分冊目も第１分冊の続きで、代表的な人物の肖像画16枚が収録されている。

著者ケネス・マックレイ（1802―1878）は、オウバン生まれの彩飾画家。医師である同名の兄と共に高名であった。彼はトラストアカデミーで学び研鑽を積み、その優れた技倆は細密画家として認められるようになり、1826年に創立されたスコットランド王室アカデミーの創始者に名を連ねている。彼の最も優れた作品は肖像画であったが、スコットランドの風景画も多く手掛けている。作品数は多いが、本書はその中でも彼の代表作である。

図は「ウィリアム・ロス　女王陛下の笛吹き」ウィリアム・ロスの出生、生いたち、女王陛下のバグパイパーに選ばれるまでの経歴、ロス家（氏族）の由来等が解説してある。キルトを身につけ、バグパイプを奏でる姿はスコットランドのシンボルである。スコットランド産の羊毛で織った格子柄の織物をタータンという。タータンの縞柄の置き方や色の組合せ方は、それぞれの氏族によって異なっており、家柄をあらわす紋章とも言われている。いうまでもなくキルトはこのタータンで仕立てた襞スカートで，丈は膝まである。ウエストをベルトでしめ、そのベルトから前中心に山羊の皮革で作ったスポーランを提げる。この袋はキルトにポケットがないため、財布や物入れに使われるばかりではなく装飾の役割も果たしている。ニット製の靴下をガーターで留め、タータンのリボンを垂らす。帽子はバルモラル型の縁なし帽で房飾りがついている。

本書はハイランドの美しい風景をバックに、さまざまな氏族のタータンを石版の鮮やかな手彩色図版で描いており、この国の民族服や風俗を調べるのに格好の資料である。

類書に『スコットランド高地地方の氏族』（The clans of the Scottish Highlands 文献番号7-19）とこの原書のプレートを抜粋して再版したプリント版（文献番号7-21）などがある。

（平井）